

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
73213	4	前期	必修	5	225
授業科目名 (英文)	老年・在宅看護学実習 (Clinical Training of Gerontological Nursing and Home Care Nursing)				
担当教員名	清水 準一／山本 由子／川村 牧子／山花 令子				
授業の概要及び到達目標					
概要 本科目の目的は、さまざまな健康生活課題を有しながら地域で生活している高齢者と家族への看護実践と在宅で療養している人と家族への看護実践を通じて、高齢者看護及び在宅看護のあり方や看護方法について学習することである。 実習は介護老人保健施設、訪問看護ステーション、地域包括支援センター等で行う。 到達目標 ① 高齢者ケア施設に入所している人（家族を含む）への健康生活支援を通して、高齢者看護を実践するために必要な基本的知識、技術、態度を修得できる。 ② 在宅で療養している人と家族への健康生活支援看護の実践を通して、在宅看護を実践するために必要な基本的知識、技術、態度を修得できる。 ③ 高齢者や在宅で療養している人とその家族の健康生活を支援する保健医療福祉体制や連携協働の実際から、看護の役割機能について理解できる。 ④ 高齢者や在宅で療養している人とその家族への看護体験を通じて、高齢者看護や在宅看護の課題と自己課題を明らかにできる。 ⑤ ①～④を通じて、高齢者看護及び在宅看護に対する自己の見方、考え方を考察できる。					
準備学習等					
① 実習前に「老年・在宅看護学実習要項」を熟読し、実習の目的、目標、方法を十分理解したうえで、実習に臨む。 ② 実習前に事前学習課題について学習し、指定された期日までに提出する。 ③ 事前課題は介護老人保健施設、訪問看護ステーション、地域包括支援センター等での実習で資料として用いるため十分時間をかけて入念に行う。 ④ 実習前に、各自が実習する訪問看護ステーション、地域包括支援センター等に関する資料を確認し、必要に応じ、施設に出向き所在地や交通経路を確認するなど、実習に向けた準備を行う。 ⑤ 実習施設での実習期間中は、毎日、実習の振り返りと予習復習を必ず行い、翌日の実習の目					

標や課題を明確にしておく。 ⑥ 特養での実習は、第一週最終日に次週の実習について教員と打ち合わせを行う。打ち合わせ前に、確認事項や質問をまとめておく。打ち合わせ後は、実習の準備を行う。なお、実習記録は、特養での実習期間内にまとめる。	
成績評価の方法	実習目標の達成度 60%、実習の取り組み度 40%
テキスト	・秋山正子他、「系統看護学講座 在宅看護論 第5版」、医学書院、2017
参考図書	老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは、正木治恵他：南江堂 老年看護技術「最期までその人らしく生きることを支援する」、真田弘美他：南江堂 「高齢者の生活機能再獲得のためのプロトコール」、中島紀恵子他監修：日本看護協会出版会) 「新しい介護」、大田仁史監修：講談社 「高齢者総合的機能評価ガイドライン」、鳥羽研二監修：厚生科学研究所 「在宅看護過程演習ーアセスメント・統合・看護計画から実施・評価へ」上田泉：クオリティケア 「関連図で理解する在宅看護過程」正野 逸子、本田 彰子：メヂカルフレンド社
備 考	① 特別養護老人ホームでの実習は、腸内細菌検査が陰性であることが要件となっているので、実習前の指定期間に、腸内細菌検査を行い、検査結果を提出すること。 ② 当科目の履修前提条件は、老年看護援助論Ⅰ・Ⅱ、在宅看護援助論Ⅰ・Ⅱの単位を修得していることである。 ③ 教員のオフィスアワーに関しては、看護学科のオフィスアワーの項を参照してください。
授 業 計 画	
1. 老年・在宅看護学実習のガイダンス 2. 実習前学内ワーク 3. 特別養護老人ホームでの実習 特別養護老人ホームに入所している高齢者への健康生活支援看護の実践 4. 実習中間学内ワーク 5. 地域包括支援センター等での実習 地域包括支援センター等がサポートしている在宅療養者及び家族への支援の実践 6. 訪問看護ステーションでの実習 訪問看護を要する在宅で療養者及び家族への健康生活支援看護の実践	

7. 老年・在宅看護学実習統合カンファレンス

- 1) 統合カンファレンスに向けた事前準備
- 2) 統合カンファレンス

8. 老年・在宅看護学実習での自分の学びを統合し、レポートにまとめる。

詳細は、『老年・在宅看護学実習要項』を参照。